虫の秋

松岡隆子

木天蓼の木漏れ日白き獣道

生きものの息の確かに夏の闇

八月や大樹の黝き影を踏み

悔恨の紅さのさても花梯梧

誰もいつか母失へる合歓の花

雀らに厄日過ぎたる波止の風

蒲の穂や板桟橋の日に汚れ

白秋の風に拡ごる波の数

影ひたと離さず秋の水馬

さやけくて石階の数声にして

秋の蜘蛛の囲危ふきは美しき

真夜覚めて更に書きつぐ虫の秋